
ピエロ

ぬじゅわきし

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ピエロ

【著者名】

ぬじゅわきし

【あらすじ】

成金社長の成上は、悩みを抱えていた。靈が見えるといつのだ。
それもピエロの靈。極限の笑い地獄に彼は悩まされる……！

成上金男なりかみ・かなおという、いかにも成金な事業マンがいた。彼は元々お金持ちでも何でもなかつたが、持ち前の会話術を駆使して、どんどん登り詰め、ライバルを潰して吸収して大資産家にまでなつた。そう、彼は順風満帆な生活を送つてゐるはずだつた。充実した企業家ライフ。自分の才能を最大限に生かし、頂上に登り詰めるその生活。彼はそれに大変満足しているし、これからも続けたいと思つていた……

が、ある日……

「新製品についてですが。」

会議室で新製品を作つた技術者らがプレゼンテーションをしてゐた。
「従来使われていた耳搔きとやらは不便で、かつ危険です。ですからこれからは、この、イヤークリーナーの時代！これをわが社で実現させましょう！」

「仕組みは？」

「このように先端に短い毛が生えてますよね？この毛が振動し、耳垢を落とす、そんな仕組みです」

そう技術者が言つた時、技術者の背後からひょっこりと人影が現れた。なんだ？と成上が見ると技術者が訊ねた。

「気になる事がありますか？社長。」

「いや、見てただけだ。気にするな。」

しかし、人影はどことなく誇張めいた、おどけた動きで蟹歩きをし

た。スクリーンの前を通りたはずなのに誰も気づかない。おかしいなと思いつつ、プレゼンテーションを聞く。

「…ですから、鼓膜とわかつた時に自動的にストップがかかります。ですから安全です。」

だが再び人影は現れた。今度はこちらに向かって、やはりおどけた動きでやって来る。人影はプロジェクターを横切ったが、なんとスクリーンには映らなかつた。成上は驚愕した。影がない？
やがてそれは姿を現した。それはピエロだつた。白塗りにいかにも笑つたようなマークをした、あのピエロだつた。成上は開いた口が塞がらず、プレゼンテーションに集中できなかつた。

* 2 *

その日以来、ピエロはし�ょっちゅう成上の前に現れた。会議の時、食事の時、何気ない会話の時。当初はいちいち不気味に思つていたが、やがて成上はピエロが視界に映る事に馴れてしまつた。

だが、ある日からピエロは恐ろしい行動をするようになつた。道化師の名にふさわしく、成上しか見えない事にいい事にピエロは笑わしに來たのである。これが成上にとつて絶大な苦痛の種となつた。

成上社長は人間性からも慕われていた。忙しい彼だが、暇な時はよく社員の人生相談を受けていたのである。

休日も、家で上品にパイプを吸いながらクラシック音楽を聞いていた時、電話が鳴つた。やれやれ今日は誰の相談かな、と成上は電話を取つた。出ると、留田というO-Lの社員が電話してきた。

「社長…また相談があるのでですが…よろしいでしょうか…？」
「どうぞどうぞ。」

そう社長が言つた時、影がちらりと見えて、社長の背筋が寒くなつた。

「あの…実は…結婚したい方がいて…」

「誰かは言えるかね？」

ピエロの影はゆっくりと近づいて来た。社長がそれを確認して後ろを向いた。〇しが言った。

「隣の隣の、藍田さんです…」

その時ピエロが視界の上から、視界一杯に社長の顔を覗きこんだ。思わず社長は「ふはっ」と吹いてしまつた。

「何が面白いんですか！」

「いや、パイプにむせた、すまん…それで…その…彼に…」くはく、とかしたのかね？」

「いえ、まさか。ですから人生経験のある社長さんに…」

社長の目の前でピエロがダンスをし始めた。それは世にもキテレツなダンスで、真面目に見たら爆笑してしまう類いのものだった。社長は笑いをこらえたが、ふと、嫌な予感がした。つぼにはまつたのだ。

「…どうにかできないでしょうか。」

だめだ、この精神状態では〇しの言葉にすら爆笑してしまつ。社長は言った。

「ちょっとすまない！本当にすまない！急用ができた！後で掛け直す！」

そして電話を切つた時、ふ、と笑いはおさまつた。回りを見回してもピエロはいない。そういうばやつは、自分が一人の時に限つて現れないのだ。どうすればいい…どうすればいいのだ。

成上はもしかしたら精神に異常を来してゐるかも知れない、と思つ

た。そこで精神科医に相談した。

精神科医はこう言った。

「あなたは、一流の企業家ですね？」ここまで登り詰めるのに多大なストレスがかかったと思うのです。自分を良く見せるための抑圧、ライバルを潰す罪悪感。そういうたストレスはあなたの深層意識に負担をかけ、やがて抑圧のはけ口を求める。その結果、笑いとうはけ口を無意識に求めるべくピエロが造り出されたのです。」成上は不満であった。もしそうなら今の企業家生活を止めなければならないではないか。彼は反論した。

「しかし、笑つてはいけない時を狙つて現れるんですよ。これは嫌がらせだ！」

「ですから、笑つてはいけないと言つことは、そこに入�이て、真面目な話をしてるからでしょう？ストレスが溜まっている証拠じやないですか。あ、すみません、お伺いしますが、と言つことは、成上さん、今ピエロが見えているのですね？」

図星であった。トーテムポールのように精神科医の頭からピエロの頭が生えていて、この世で決してありえない形相で成上に迫ってきた。その光景の異様さに成上は笑いだしそうになつた。精神科医は言つ。

「笑いなさい、笑うのです！笑いを抑圧してはいけない！いま、ここで吐き出してしまいなさい！さあ！」

「やめろおおお！」

首一つで説教する精神科医に耐えきれず成上は叫んだ。すぐに笑いはせまつてきて、所々吹き出しながら、精神科医に言つた。

「もういい、ぶつ、これ以上は結構うつふふ、診察代は、おははつは…払います。」

そう言つて成上は診察室を出た。

やがて、自分は精神病ではなくピエロに憑かれてると思つた。月に

憑かれたピエロではなくて、ピエロに憑かれた自分。なんて下らないジョークなんだと思いながらも、またあの“笑い”が迫ってきて収めるのに苦労した。

そこで、成上は悪霊払いを思いつき、いろんな宗教の専門家にお祓いに行つた。キリスト教から仏教や神道やイスラム教、各地を回つたが、そもそも自分にしか信心のない成上には全く効果なく、神父からは「しつかりしなさい、罪を告白し心を強くするのです。」と説教され、寺のお坊さんからは「邪念と煩惱に溢れています。自分を無にして悟りを開くしかありません。」と言われる始末であつた。酷いのは神道で、巫女さんのお祓いに合わせてピエロが踊り出したのである。成上は耐えきれずお祓い中に逃げ出してしまつたのだ。

このように、彼は企業の事ばかり考えて自らに差し迫つた問題に逃げてばかりいたので、やがて恐ろしい事が起きてしまつたのである。

* 4 *

事のきっかけは成上の会社の部下の不祥事である。事業成績を上げるために取引先を脅したのだが悪いことにそれがマスコミにスッパ抜かれてしまつた。かくして成上社長は釈明をせざるを得ない事態となつた。

会場は異様なムード、社長を弄ぼうとするマスコミが好奇の目を向け、株主らが怒りに燃えていた。成上社長は、また、嫌な予感を感じた。案の定、ピエロが座つている。やつは無視するしかないと想いながら

ら社長は釈明の原稿を読んだ。

「えええ、今回、ウチの藍田くんが、このよつた事をしてしまい、誠に申し訳なく思い…」

パシヤ。フランシュが目を射た。眩しい、と目をつぶり、開けたその瞬間、ピエロが目の前にいた。思わず叫びそうになつたが、それをこらえて続きを話した。

「…えええ、思います。この件については、私の指導力の不足もあつたかと、」

ピエロは厚かましくも成上の顔を覗きこみ、くわっと形相を変化させた。それで笑いだしそうになつたので、思わず叫んだ。

「やめろ！」

笑いそだつたので声色が多少軽薄だったこともあり、記者らは「何がやめろですか？」、「あなたの社員の問題ですよ…」と口々に騒いだ。すぐにそれに釈明しようとしたが、数本のマイクがどれもピエロに見え、皆、「ベー」と変な顔をした。成上は見上げたが、同時に危機を感じた。笑いがつぼにはまりだしたのだ。今や会場の文句さえも面白く感じ、精神状態が徐々に危険に走るのを感じた。それでも言わなければならぬ。彼は自分の声にさえおかしく感じて吹いてしまつたが頑張つて話し続けた。

「すみませぶふつ、いまのははは、ただの、くくく、まちがいーいやはははははははははははははは、うおあーはははは、ぐわはははははは、はひーひーひー、うをほほほほほほ、くくくく、くくくく…んはははははははははははははは」
けたたましく笑いだした社長に会場はすっかり異様さに冷めてしまつた。笑い声を聞いたピエロは成仏したような表情になつて光になつて消えていった。成上社長は笑い続けたが、やがて呼吸困難でぶつ倒れて救急車に運ばれていった。

(完)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4438n/>

ピエロ

2010年10月9日15時41分発行